

白血球パニック値の4万、孫悟空も協力へ。

ドナーくろだ緊急入院

くろだより



LINE@に登録!
kuroda.tvも公開中!

7月4日、福岡市内の病院では午前10時から3時間をかけ、ドナー黒田医師の血液から造血幹細胞が採取された。なぜ突然ドナーとして入院したのか。造血幹細胞移植と骨髄移植の違いは何か。骨髄バンクなんて縁が無いと思っていたという黒田医師がその思いを語ってくれた。

「俳優の木下ほうかです。僕も今年で骨髄バンクを卒業。僕を引き継ぐ人が早く出てこないかな。」といったラジオCMを聞いていたものの、他人事と思っていた黒田。ある日、レストランで突然父親の主治医から電話。「お父さん、薬に反応せず、悪化しています。もしこのままだと、今は自覚症状ありませんが、この冬に肺炎になったら助からないと思います。そんな話をしたら急に移植したいと言い出しました。」

血液にはバイキンと戦う白血球、酸素を送る赤血球、血を止める血小板の3種類がある。その材料はいずれも同じ造血幹細胞だ。これがボンコツになり、正常なものが上手に作られなくなると正常な細胞が減少する。そして血液中に失敗作が溢れる。放っておけばこれらがますます悪化し高率で白血病になる。わかりやすく言えば白血球の卵で日本では10万人あたり3〜10人。60〜70代前半に多い(父72才)。化学治療の2年生生存率は5割で3年は3割。唯一の根治治療は造血幹細胞移植だが、その後3割は移植関連の合併症で死亡する。通常は移植は65才まで。つまり65才を過

ぎて病気にかかると、薬が効いても半分の確率で2年以内に死亡、根治の移植は基本的に適応が無く、薬(ゼターザ)が効いてくれるのを願うしかないというある意味では癌よりも恐ろしい病気なのである。

この冬死にます

病状説明では化学治療の生存率や移植の成績、72才ながら元気なため、造血幹移植検討という内容であった。息子はやれるなら造血幹細胞や骨髄移植で根治を目指せという方針。父は3年生きればいいからとそれを拒否。主体は父親のため、医師である息子も受諾。「お父さんはしないとこの選択を取った。今は自覚症状無いけれど、元気がな時間が限られていて、ほし



3時間動けない。コード・ブルーを初鑑賞

「息さんのが適合しました」。もしかしたらと親子対談時に検査したら極めて稀な確率で重要な6個中5個が一致。移植に必要な型をHLAと言いますが、両親から3つずつ引き継ぐため、半分は必ず一致する。しかしもう片親からの3つ中2つ以上が一致する可能性は低く、例えるなら「日米ハーフの父親が、世界版出会い系アプリで結婚したら日50%米25%露25%のハーフだった位レア」。非血縁者での一致率は数百〜数万分の一。また血縁者の5/6一致と非血縁者の6/6一致では前者の方が予後が良く、骨髄バンクを通すと半年以上後だが血縁者なら半月程度で採取可能と最高の条件も判明。勤務先の理解と病院の協力もあり、病院初の外来併用コースになり、外来注射3日間(1回3本)、入院2泊3日での最速プランとなった。貴重な体験をした黒田は「ナ

全米が泣いた

「息さんのが適合しました」。もしかしたらと親子対談時に検査したら極めて稀な確率で重要な6個中5個が一致。移植に必要な型をHLAと言いますが、両親から3つずつ引き継ぐため、半分は必ず一致する。しかしもう片親からの3つ中2つ以上が一致する可能性は低く、例えるなら「日米ハーフの父親が、世界版出会い系アプリで結婚したら日50%米25%露25%のハーフだった位レア」。非血縁者での一致率は数百〜数万分の一。また血縁者の5/6一致と非血縁者の6/6一致では前者の方が予後が良く、骨髄バンクを通すと半年以上後だが血縁者なら半月程度で採取可能と最高の条件も判明。勤務先の理解と病院の協力もあり、病院初の外来併用コースになり、外来注射3日間(1回3本)、入院2泊3日での最速プランとなった。貴重な体験をした黒田は「ナ

7月17日、父入院。息子の元氣玉を受け、4割完治へ挑む。



ことになった。どちらも1回ずつ制限があるため、残りは骨髄移植1回。「人を助けるために医者になったが、一番救いたいと思っていて、残りの運悪く病気になるってしまった人を確実に助けられると思つた。体は1回インフルエンザになったと思えばいいが、会社や国が移植入院に有給など制度を整えないとまず広まらないなと痛感した。後に判明した幹細胞の量、質とも申し分なく、採取後はすぐに外出。高級ステーキを食べてこっそり飲酒した事も判明(ロイター通信)。

編集後記